ピカイチ先生の
生活経営セミナー

2016年11月
仕組で稼ぐ家計簿
（⑤ 口座を整頓する）

ネクストライフ・コンサルティング
〒975-0038
福島県南相馬市原町区日の出町167-3
info@next-life-consult.com
ピカイチ先生　検索

ピカイチ先生

「やり繰り」と「やり取り」

外部環境

【制約】 相手に合わせる（金融機関・取引相手）
【戦略】 最適化しない（柔軟性）

やり取り

話してもわからない

どうなるの？

危機管理
（安心を創造）

不確信性へ対応

経営者

内部環境

話せばわかる

どうするの？

安全管理
（安全を整備）

不確実性へ対応

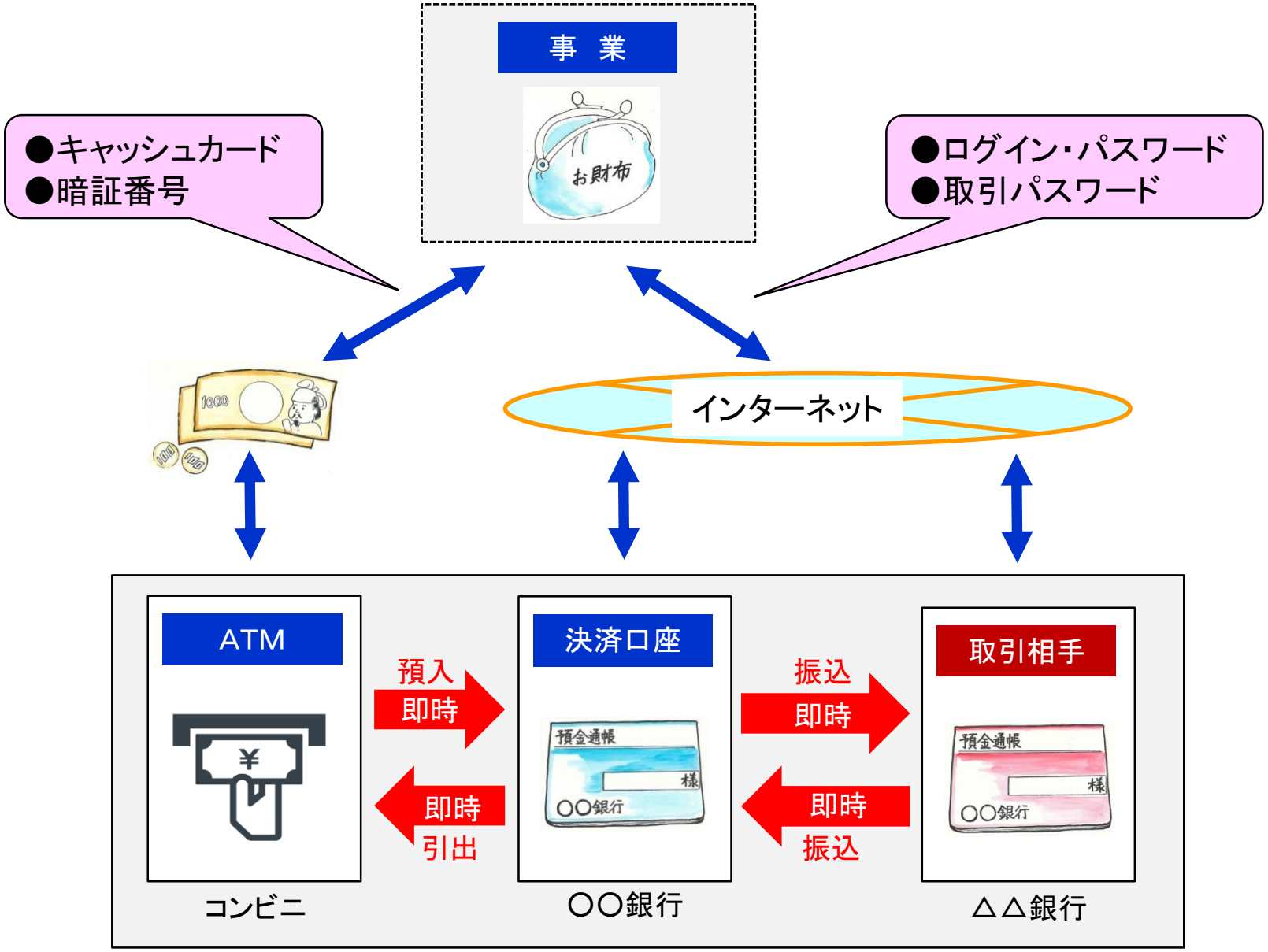
品質管理
（安定を確保）

不確定性へ対応

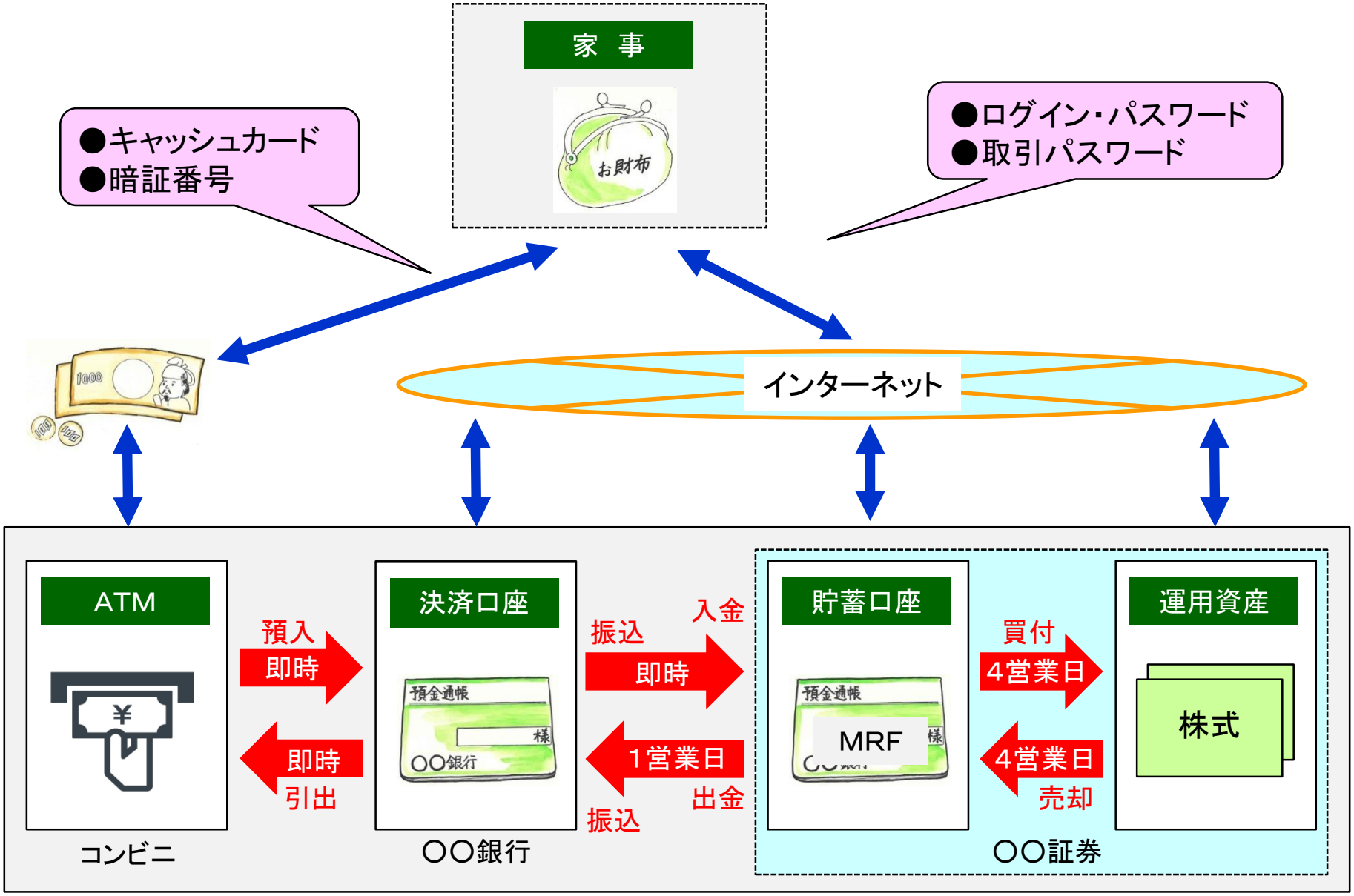
やり繰り

【制約】 資源が足りない（人・モノ・金・時間）
【戦略】 究極を目指す（継続性）

口座の仕組み（①事業口座）



口座の仕組み（②家事口座）



口座の整理・整頓

【整頓】
いつでも使えるように、保守・点検を欠かさない

保守・点検

時々、実際に使ってみる （ex.避難訓練）

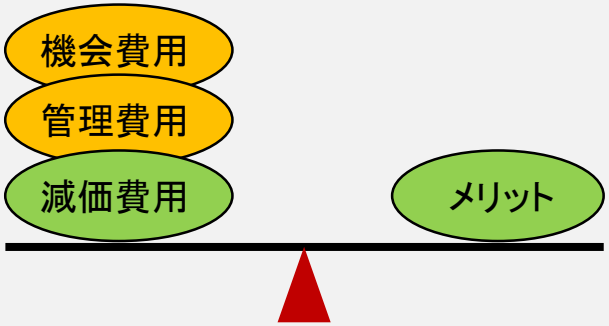
評価

要らない ⇒ 【整理】

「やり取り」の変化に
対応し続けるの？

パスワードは？
利用制限は？

できるの？



この世に、二つの脳があるということ（1/2）

このように、男女の脳は違う。
装置として見立てれば、まったく別の装置である。

片方は、高い空間認識力を有し、獲物までの距離を正確に測って狩りをし、複雑な図面を読むし、ビルを建てるし、飛行機を飛ばす。目の前のことに気づかず、大切なひとの心の機微にとんと疎いが、究極の事態に強く、死ぬまで頑張れる脳である。

もう片方は、目の前をなめるように見て、他者の体調変化や食べ物の腐り具合を見逃さず、おしゃべりによって潜在情報を収集し、それを何十年経ってもとっさに使える臨機応変脳だ。

片方は、無茶な冒険や競争をして新天地を開拓し、のんきに遺伝子をばらまく。もう片方は、生活空間を大事にし、生殖相手の遺伝子を厳選して独占しようとする。

片方は、継続して責務を果たした相手に愛着がわき、もう片方は、共感してくれる相手に愛着がわく。

片方は、成果評価がなければやる気を失い、もう片方は、ねぎらいのことばがなければやる気を失う。

（次頁につづく）

「キレる女　懲りない男」（黒川 伊保子）より

この世に、二つの脳があるということ（2/2）

自然を司る神は、人類に必要な感性を真っ二つ分けて、男女それぞれの頭蓋骨に搭載したらしい。

これらを一つの頭蓋骨にハイブリッドに納めようとすると、頭蓋骨の容積が格段に大きくなるし、とっさの判断が数秒も遅れることになる。人類という系で見れば、こんなに合理的な「種の保存」システムは他にありえない。まぁ、うまいことをしたものである。

ただ、脳にとって哀しいことは、自分にない機能を認知さえできないということ。ということは、男女は、たいてい相手を愚かだと思いながら暮らすことになる。

夫婦なら、「愚かだなぁ」も愛しさのうち。それはそれで放っておけばいいのだけど、職場の男女となると、これは深刻である。

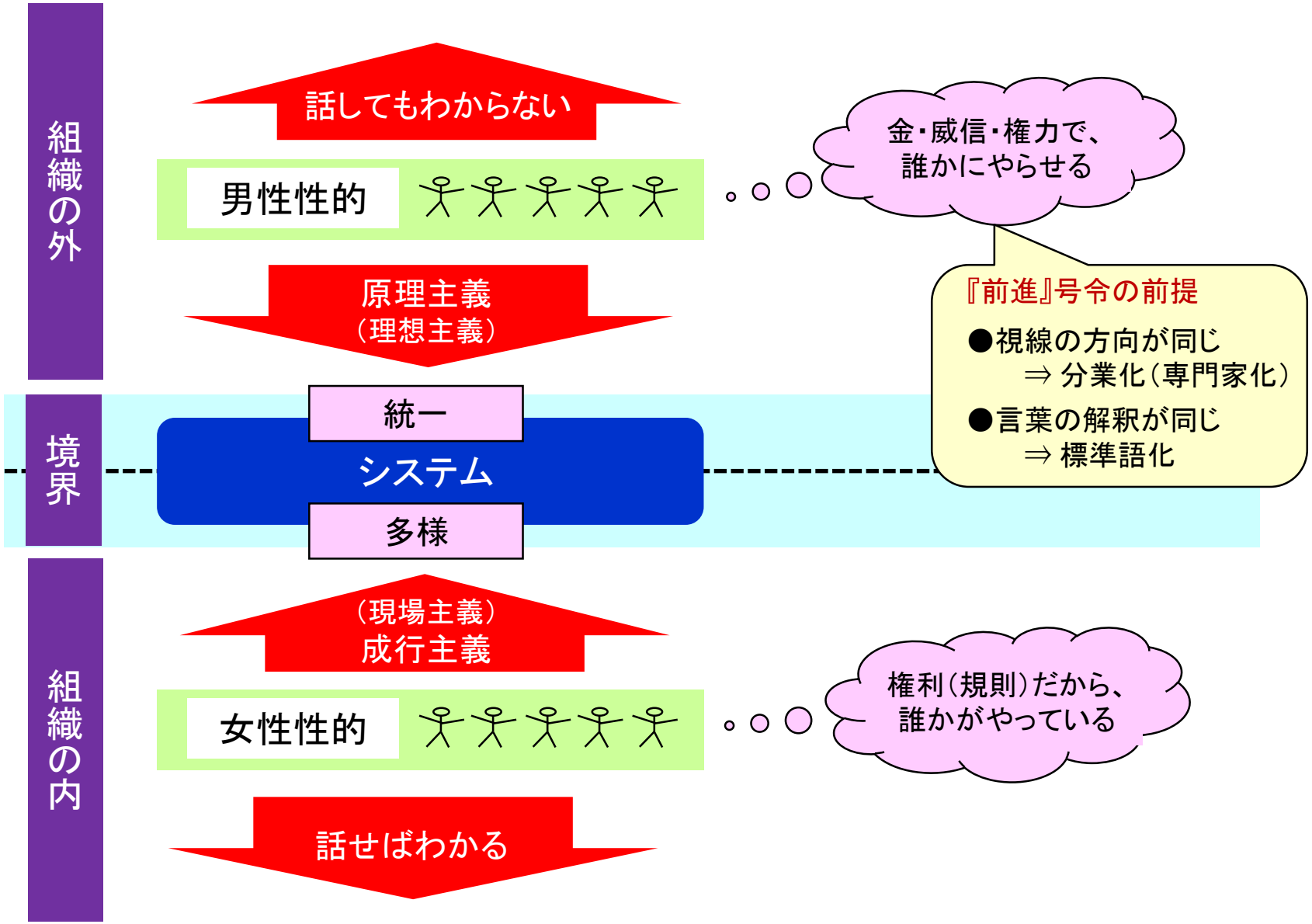
この世に二つの脳があるということ。

私たち男女は、一組で完成体である。その特性は大きく違い、違うからイラつくけれど、違うからこそ組む意味がある。

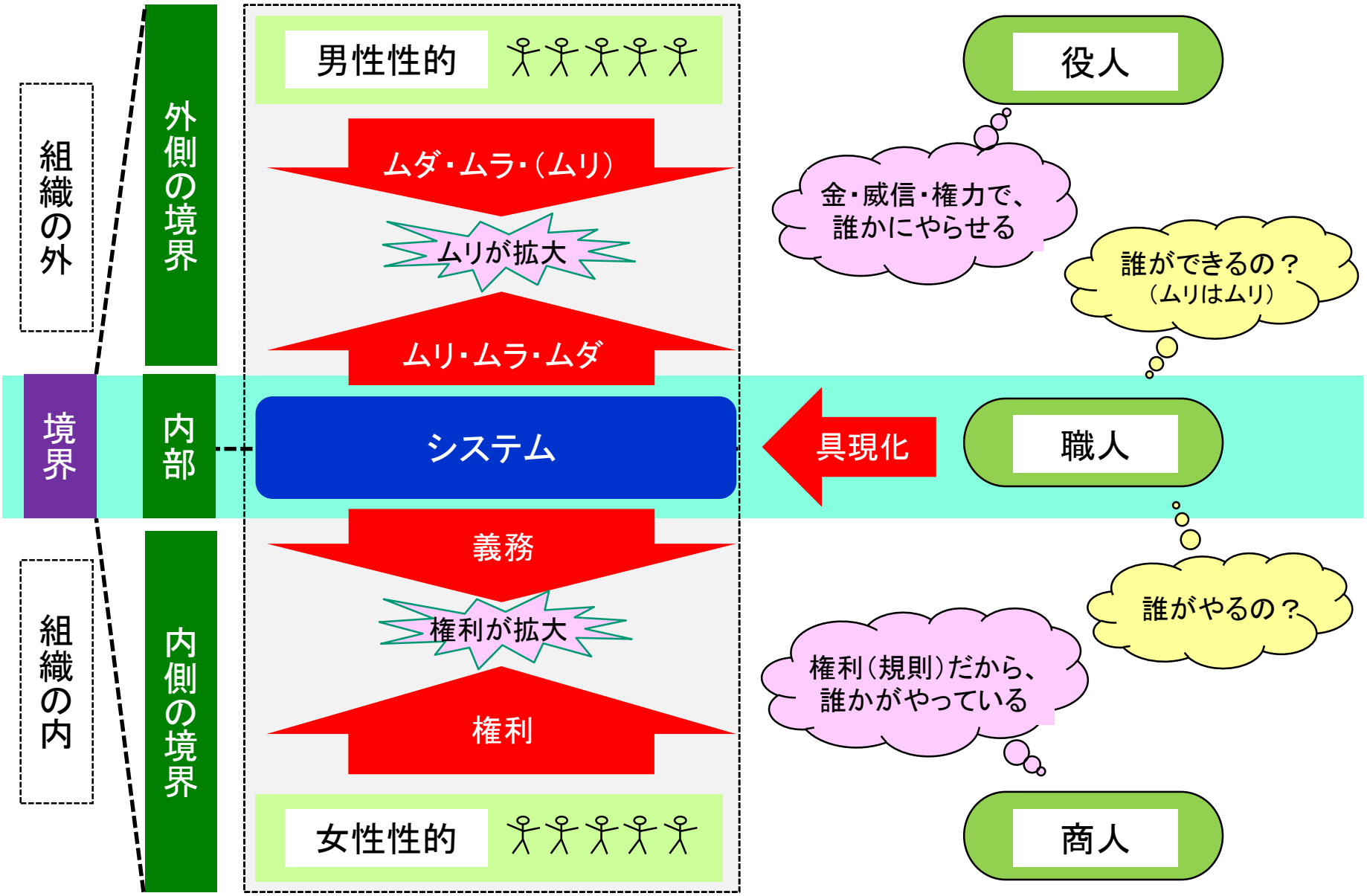
社会のあらゆるところで、男女が共に働く時代。すべての大人が、そのことを知るべきだと私は思う。

「キレる女　懲りない男」（黒川 伊保子）より

システムの二面性（①男性性的と女性性的）



システム内部の二面性（②職人と役人商人）



男の「気持いい」と女の「気持いい」（1/2）

同じ言語でコミュニケーションしている男女は、基本的に自分の気持ちは相手に通じている・・・・と信じている。「でもこれ、もしかすると、ちゃんと通じていないじゃないの？」と、私が気づいたのは、大学卒業後に勤めたコンピューター・メーカーでの研究中のことだ。

当時、配属された人工知能開発プロジェクトのミッションは、人とロボットとの対話の研究。人間の意図を察して、人に寄り添うように動くメカには、まず人間のことばを理解してもらわなくてはならない。人は対話でどのように満たされていくのかを解析する中で、男性と女性では、満たされる対話、すなわち好みの対話のスタイルが違うことがわかってきたのだ。

気持いいと感じることばの種類が違うし、察してほしいことも違う。そもそも対話の目的自体が大きく違っているのである。

突きつめれば、男性向けの対話エンジンと、女性向けの対話エンジンは別の設計をしなければならない。そうでなければ、ロボットは人と幸せに共棲できないという結論に達し、これは大事だと気づいたのである。

（次頁につづく）

「鈍感な男　理不尽な女」（黒川 伊保子）より

男の「気持いい」と女の「気持いい」（2/2）

しかも、それはことばだけではなかった。五感から入ってくる情報だって違う。

たとえば、人の目は光の三原色に対応する三種類の色覚細胞を持っていて、赤・緑・青の組み合わせですべての色を認識する・・・・とされているが、女性の約半数は、三原色でいう赤の領域に当たる光を二種類（つまり四原色）に分別する。

色合いで言うと、紫の領域に当たり、三原色色覚者の男性には見えない「紫色」が見えると言われている。

つまり、女性はピンクから紫へのグラデーションに対して繊細なのだ。このおかげで、もの言わぬ赤ん坊の顔色の変化を見逃さず、食べ物の腐り具合を見分けることもできる。そして、男性にはほとんど見分けのつかない“新しい口紅の色”について「いつもつけているのとは全然違うじゃない！　ホントに私のこと見てないよね！」などと、当然のごとく怒ったりもする。

また、音の認知周波数も女のほうが広い。だから、キーンという高音を非常に不快に思う女性は多いが、男性はそれほど気にしない。

さらに、味覚の感度・皮膚の触感の感度も違うことが判明している。

つまり、男性と女性は「脳がとっさに心地よいと感じる（あるいは不快と感じる）事象」の方向性が、まったく違っているのである。

「鈍感な男　理不尽な女」（黒川 伊保子）より